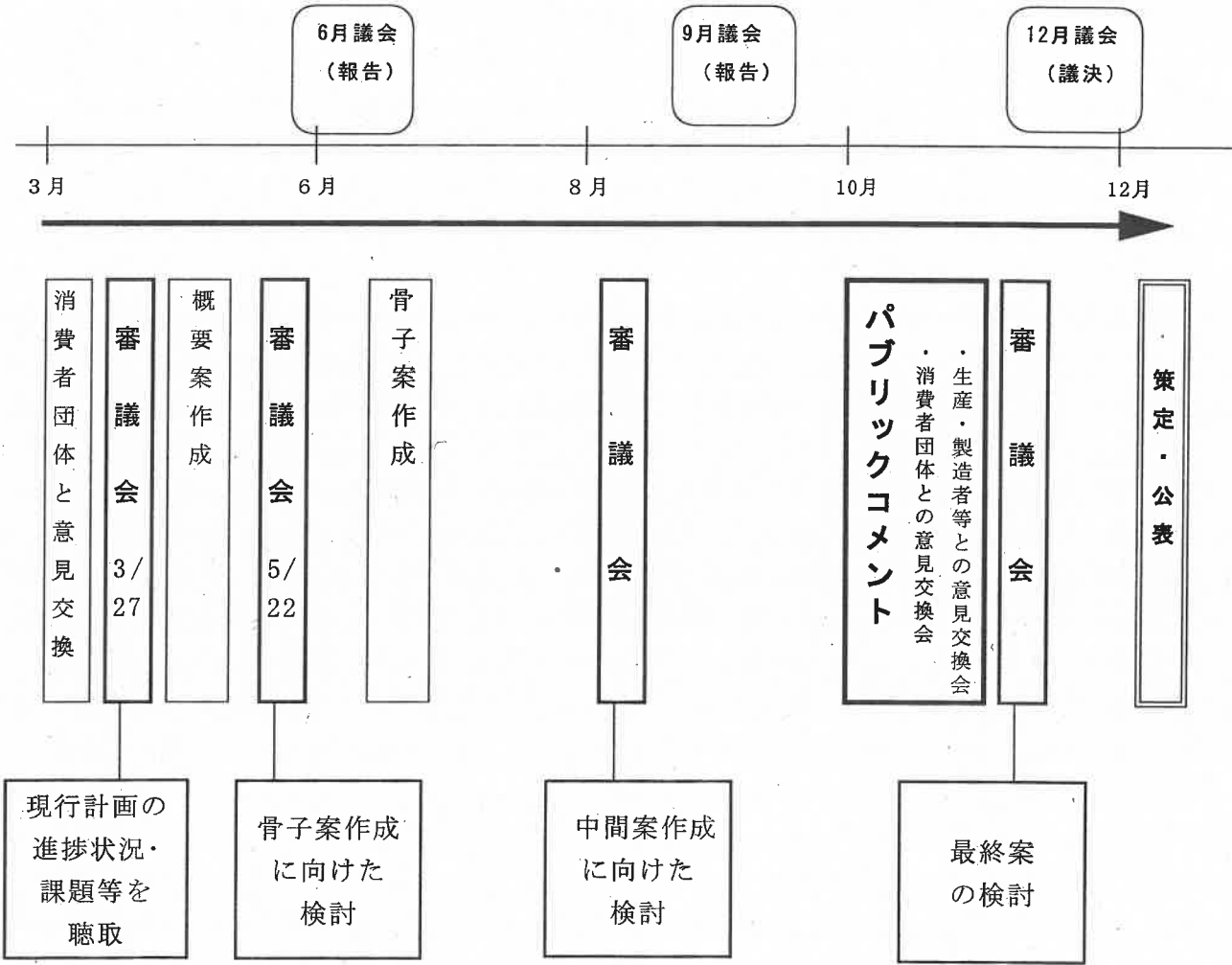


第5次京都府食の安心・安全行動計画（平成31～33年度）の策定について（案）

1 策定の根拠等

- ・ 京都府食の安心・安全推進条例第5条に基づき策定
- ・ 当該計画は、「京都府行政に係る基本的な計画の議決等に関する条例」に基づき、議会報告の上、府議会の議決が必要
- ・ 現在の行動計画（第4次・平成28年度～30年度）は平成30年度までの計画のため、次期計画を、平成30年度中に策定

2 策定スケジュール



(参考) 京都府食の安心・安全推進条例～抜粋
 (食の安心・安全行動計画)
 第5条 知事は、食の安心・安全の確保に関する施策を総合的かつ計画的に推進するための行動計画（以下「食の安心・安全行動計画」という。）を定めるものとする。
 2 食の安心・安全行動計画は、食の安心・安全の確保に関する施策の目標及び内容について定めるものとする。
 3 知事は、食の安心・安全行動計画を定めるに当たっては、府民及び食品関連事業者の意見を反映させるために必要な措置を講じるとともに、第25条第1項に規定する京都府食の安心・安全審議会（第6項及び次章において「審議会」という。）の意見を聴かなければならない。

(基本記一応知事) 國情進行報告、重要功績報告書、重要
【圖】 行政執行組織

重要功績報告書

重要功績報告書は、行政執行組織の各機関が、その職務の執行に
関して、その功績を報告するものである。重要功績報告書は、行政執行
組織の各機関が、その職務の執行に、重要な功績を挙げた場合に、
その功績を報告するものである。重要功績報告書は、行政執行
組織の各機関が、その職務の執行に、重要な功績を挙げた場合に、
その功績を報告するものである。

表 1-1 行政執行組織



重要功績報告書

重要功績報告書は、行政執行組織の各機関が、その職務の執行に
関して、その功績を報告するものである。重要功績報告書は、行政執行
組織の各機関が、その職務の執行に、重要な功績を挙げた場合に、
その功績を報告するものである。重要功績報告書は、行政執行
組織の各機関が、その職務の執行に、重要な功績を挙げた場合に、
その功績を報告するものである。

「第5次京都府食の安心・安全行動計画」の策定について

【行動計画の枠組】

第1章 食を取り巻く現状と課題

1 食を取り巻く現状

- (1) 国における食品表示法に基づく表示基準の改正やHACCPの制度化等
 - ・平成29年9月の食品表示法に基づく食品表示基準の改正により、全ての加工食品に原料原産地表示が義務化されたとともに、遺伝子組み換え食品の表示についても制度の見直しが検討されている。
 - ・食品衛生法の改正が国会審議中であるが、全ての食品関連事業者はHACCPによる衛生管理が求められる予定
- (2) 食の安全に関する情報の氾濫
 - ・ソーシャルネットワーキングサービス（SNS）等ICTの発達・普及により、食に関する情報が氾濫するとともに、飛躍的に拡散度が高まり消費者の食の安全情報の選択が難しくなっている。また、食品関連事業者にとってはメリットもある一方、リスクも大きくなっている。
 - ・修学旅行生や近年特に増加している外国人観光客等が、安心して京都の食を味わっていただけるといったような情報提供が必要となっている。
- (3) 食品の偽装や食中毒等の発生
 - ・食品の不適切表示や異物混入等による食品の自主回収、産地偽装や食中毒が引き続き発生している。
 - ・豪雨災害の頻発や南海トラフ地震の発生が予想される中、避難所等での食中毒や食物アレルギー対応など食の安全確保が必要となっている。
- (4) 少子高齢化等への対応
 - ・少子化等により子どもの孤食や栄養バランスの偏り等が課題となるとともに、日本食文化の継承が途絶えつつあることが懸念されている。
 - ・高齢化の進展により、高齢者の食の安全確保とともに、健康長寿を支える食のあり方が求められている。
 - ・社会全体で支え合う気運の高まりにより、子ども食堂や高齢者へのボランティアによる食事提供の場が増加している。

2 第4次行動計画の成果と課題

(1) 成 果

- ・リスクコミュニケーションや消費者と生産者との交流会の開催等により、2千名を超える府民の参加（平成28～29年度）があり、食の安全への理解が進んでいる。
- ・食品関連事業者による安全性を確保・向上する取組や、京都府による食品表示や食品衛生等の監視・指導・検査により、府内産農林水産物や加工食品等に対する消費者の信頼感は向上している。
- ・食物アレルギーやムスリム食等に対応する施設の増加やホームページでの食の安全情報の提供等により、食に制約がある府民や観光客等への対応が前進した。

(2) 今後の課題

これまでの取組に加え、以下の課題への対応が必要

- ・原料原産地表示の義務化や HACCP の制度化について食品関連事業者や府民への普及・啓発・監視対応
- ・府内産の農林水産物や加工食品に関する食品関連事業者と府民の相互理解による信頼感のさらなる向上
- ・少子高齢化社会の進行に対応した食生活の改善と、衛生管理手法と両立させた食文化の伝承

第2章 計画の基本的な考え方

めまぐるしく変化する食を取り巻く状況に対応するため、平成31年度から3年間を対象期間とした行動計画を定め、「食の安心・安全基盤の強化」、「食の信頼感向上に向けた情報提供の強化と府民・食品関連事業者の参画拡大」、「監視・指導・検査の強化」の取組を通じて、府民の食に対する安心感を高めます。

第3章 取組の展開

1 食の安心・安全基盤の強化

- 食品の生産から処理・加工、流通・販売までのフードチェーンにおいて、中小規模の事業者が多い京都府の実情を踏まえ、安全性の向上と食料の安定供給に努める事業者の新たな制度等への対応を支援する等、食の安心・安全基盤を強化させます。

例えば、原料原産地表示義務化や HACCP 制度化への対応について、食品関連事業者等に対しきめ細やかなサポートをするとともに、環境負荷が少なく資源保護に配慮した食品の生産を支援します。

2 食の信頼感向上に向けた情報提供の強化と府民・食品関連事業者の参画拡大

食品関連事業者や京都府の食の安心・安全の取組や食文化等のわかりやすい情報提供により、府民が食について考える機会を増やすとともに、府民と食品関連事業者等の交流を通じて相互理解を促進し、食への信頼感と食品を大切にする意識を向上させます。

例えば、インターネット上で開校している「食の府民大学」等、ICTツールを活用した情報発信をする一方、消費者と食品事業者等が直接意見交換する場を増やします。

3 監視・指導・検査の強化

食品による健康被害の未然防止や適正な食品選択に資する等のため、監視・指導・検査・相談等の強化により、生産・製造された食品の安全性を確保します。

例えば、農薬の適正使用や食品表示の徹底等、生産現場での指導に加え、流通過程での衛生的な食品の取扱いについて、監視・指導等を強化していきます。

第4章 行動計画の管理・公表

食の安心・安全推進条例に基づいて、毎年、施策の実施状況の取りまとめ及び公表を実施

第 10 頁

本報告係根據... 資料... 整理而成...

第 10 頁

本報告係根據... 資料... 整理而成...

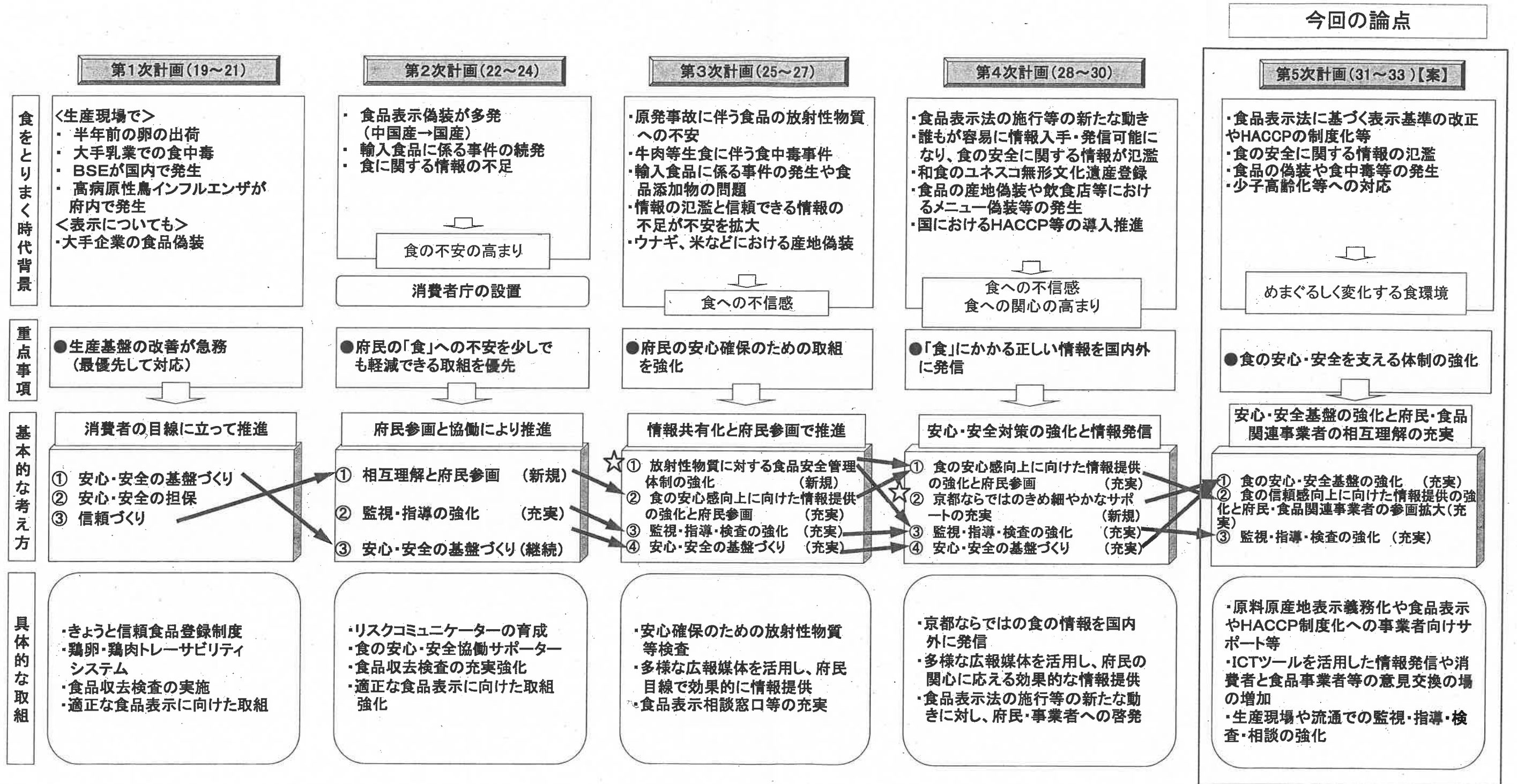
第 10 頁

本報告係根據... 資料... 整理而成...

第 10 頁

本報告係根據... 資料... 整理而成...

京都府食の安心・安全行動計画の推移



2019年12月31日

资产类别	账面余额	减值准备	账面价值	计提比例
货币资金	100,000,000.00		100,000,000.00	
应收账款	200,000,000.00	20,000,000.00	180,000,000.00	10%
其他应收款	50,000,000.00	5,000,000.00	45,000,000.00	10%
存货	150,000,000.00	15,000,000.00	135,000,000.00	10%
固定资产	300,000,000.00	30,000,000.00	270,000,000.00	10%
无形资产	80,000,000.00	8,000,000.00	72,000,000.00	10%
长期股权投资	120,000,000.00	12,000,000.00	108,000,000.00	10%
其他非流动资产	30,000,000.00		30,000,000.00	
合计	1,030,000,000.00	90,000,000.00	940,000,000.00	8.74%

第5次食の安心・安全行動計画策定に向けての意見整理

◇食の安心・安全審議会委員

3月27日開催の審議会において意見聴取

現在の食を取り巻く社会情勢及び取組について

〈全体〉

- ・アンケート調査等を通じて府民の意識調査を経年的に実施し、府民が現在の食の取り巻く状況をどのように感じているのか、データを取りそれに基づいて計画を立てるべき。
- ・取り巻く情勢の把握について、例えば食中毒の発生件数等、できる限り具体的な数値で表した上で、計画を作っていただきたい。
- ・事業者にのみ努力を求める形ではなく、生産者、加工者、消費者皆にメリットのある計画にしていただきたい。
- ・計画策定にあたり、消費者団体だけではなく、生産者団体とも意見交換をしていただきたい。
- ・取組項目数として現計画は50個あるが、それだけの数が必要かどうか見直してはどうか。
- ・世界的な流れとして国連のSDGs（持続可能な開発目標）がある。食の持続可能性ということが一番大きな視点として持つてはどうか。

〈国際化の加速〉

- ・まずは京都府民の食の安心・安全を第一に考えた上で計画を策定願いたい。オリンピック・パラリンピック開催に伴う訪日外国人の京都訪問者数の数は知っている。また、輸出に対応した食料生産についても、これは事業者が考えることであり、府の計画の検討素材としてなじまない。
- ・訪日観光客の増加に伴い民泊が増えている。民泊における食事提供の場合の食品衛生に関する指導等が必要になってくるのではないか。

〈少子高齢化の加速〉

- ・今までの計画に無かった「食文化の伝承」という視点が加わっていることは良い。
- ・「食文化の伝承」とあげられており、「食育」の視点は大切であることから計画に盛り込んでいただきたい。
- ・孤食の増加という項目があがっている。ボランティアで高齢者の方に食事を提供したり、子ども食堂の広がりもあるが、提供するにあたり特に資格が必要では無いことから、事故等の発生に不安を感じている。

- ・特に高齢化にのみ焦点があてられている。若年女性の摂取カロリーが低いことは、将来に及ぼす影響として大きな問題であり、若者の食事や栄養の問題に関する視点を入れていただきたい。

〈その他〉

- ・事が起きて何かをするのではなく、想定される事に対してあらかじめ準備をしておく事が重要。マイクロプラスチックの問題、温暖化に伴う地中水銀の海洋への流出の懸念等、幅広く想定して、検査を担保する等備えていくことが必要
- ・先日策定された熊本の第3次健康食生活・食育計画では、熊本地震後、バランスの取れた食事が提供出来ないために様々な問題が発生したことから、計画に災害発生後の食についての観点を盛り込んでいる。今後発生が予測される大規模災害において、災害そのものだけではなく、関連死が多数出ることが予想されることから、災害後の食料調達の体制も含めて考えていかないといけない。災害時の食のBCP、安全な食の提供、問い合わせへの対応という点について取組の柱に入れていただきたい。

[審議会後追加御意見]

- ・日本の食に関するアイデンティティの確立が必要
- ・まずは府内で食料が自給 出来るよう考えてはどうか。
- ・府としては、食に関する府内資源を洗い出し、携わる人の力を最大限に活かすプロジェクトを。
- ・食の安心・安全フォーラムを信頼食品登録制度事業者以外にも拡大
- ・これまで継続してきた検査監視等、他機関と連携し府民の安心・安全、安価、安定の立場から施策の牽引を。
- ・放射性物質検査は市町村からの要望が無くても続けて欲しい。
- ・「いわゆる健康食品」に対する対策が必要
- ・食品テロへの対応について、テロ行為を一括りにするのではなく、いくつかの規模や方法、ケースを想定しておく必要がある。
- ・大規模災害発生時は長期間にわたって安全な食の確保が困難になることが予想される。府民が災害を想定した備えを促すことが重要。リスクコミュニケーション等の実施より、普及啓発を徹底
- ・府は、どの段階でどのような行動をとるかの体制を備え、府民と情報共有しておくことが大切。災害想定の種類訓練もしておくべき。

◇消費者団体

3月15日開催の消費者団体(*)との意見交換会において出された主な意見

安心・安全について
<ul style="list-style-type: none">・安心と安全の違いを押さえて計画を策定して欲しい。・「安全だと言われても安心出来ない」をどうしていくかが問題である。安心は信頼が支えていると考えるが、この信頼がどうすれば確立されるか考えて欲しい。食の安心・安全推進条例が制定された経緯を忘れてはいけない。
リスクコミュニケーションについて
<ul style="list-style-type: none">・リスクコミュニケーションは大切。計画に、具体的なテーマを盛り込む等し推進して頂きたい。・若者を含めたリスクコミュニケーターの育成を。・消費者も消費者目線だけではなく生産者の考え方を知るなど大きな視点で考える必要がある。
アレルギーについて
<ul style="list-style-type: none">・アレルギーそのものへの理解が深まっていないと感じる。府民が学べる場を大学（府立大学など）と連携するなどして作って欲しい。・表示義務を持つ食品事業者に、アレルギー表示の重要性について理解させて欲しい。・子ども食堂、子ども会でのアレルギーへの対応も必要
エコファーマーについて
<ul style="list-style-type: none">・エコファーマーの認定面積の目標値が少ない。国の有機農業推進法の策定などの動きがあり、府も具体的な取組が必要・新規就農者へのサポートが必要
こ食について
<ul style="list-style-type: none">・高齢者の濃食による健康不良について、他府県の「減塩サポーター」育成のような細やかな減塩指導等を施策として取り組んで欲しい。
その他
<ul style="list-style-type: none">・行動計画の目標値が年間目標の値か、累計目標の値なのかを分り易く。・ネオニコチノイドについて拘りを持つ人も多い。人体への影響に関する報告や海外の規制などの動きもある。ネオニコチノイド系農薬のリスク評価を示さないと不安は払拭されない。・輸出食品が増加する中でその安全性の担保が重要となる。国内向け食品の安全保障にもつながるため検討いただきたい。・輸入食品の収去検査件数を数値で示して欲しい。・健康食品の食べ合わせによる健康被害について情報開示をお願いしたい

- ・漠然とした不安や不信に対し、消費者団体と協働し、口コミのような身近で広がる「ゆるやかな情報の共有」を。
- ・国や企業もエシカル消費やSDGsに取り組むとしており、第5次計画はグローバル化が一つの要素になると考えている。
- ・食中毒などが広域発生した際の近隣府県との連携を検討して欲しい。初動で迅速に対応出来る仕組み作りをお願いしたい。
- ・気候変動については、野菜の価格変動への対応や、適応の議論が必要になってくるのではないか。また、気候が変わることで農産物のカビなど保存の問題が出てくる。
- ・「遺伝子組換え」だけでなく「遺伝子操作」のような新しいものに対する不安にも情報提供などにより対応していただきたい。

(*)消費者団体：京都府生活協同組合連合会

NPO法人コンシューマーズ京都

NPO法人京都消費生活有資格者の会

住みよい京都をつくる婦人の会

NPO法人使い捨て時代を考える会

平成29年度食の安心・安全アンケート調査結果について

1 調査の概要

(1) 目的

府民の食の安心・安全に係る意識を把握し、京都府における食の安全や信頼性の確保の推進に資する。

(2) 調査対象

一般府民（内 暮らしの安心推進員（食品表示チーム）288名）

(3) 調査方法

インターネット及び郵送書面調査

(4) 実施期間

平成30年3月1日～3月31日

(5) 有効回答数

474名

内 インターネット回答 57名

書面回答 170名

広報モニター 247名（問1、2、6、7、12のみ回答）

(6) 調査項目

- ・食品の安全性に対する関心の有無
- ・食品の安全性について不安に思うこと
- ・食品の安全性に関する情報の情報源
- ・行政に行ってほしいこと

【京都府暮らしの安心推進員】

趣 旨 府民協働による食の安心・安全確保と消費者被害の未然防止。食の安心・安全推進課と消費生活安全センター（府民生活部）が連携して設置。

活動内容 ・食品表示の監視
・食の安心・安全情報の伝達
・消費者トラブル未然防止・早期発見のための見守り活動

【京都府広報モニター】

趣 旨 府民参加による開かれた府政の推進を目的として、府が行う広報活動についてアンケート調査を実施し、府政運営の参考とする。

活動内容 府が行う広報活動に対する、インターネットを利用したアンケート調査への回答など。
（年12回程度）

2 回答者の属性

区 分		回答数	%
全 体		474	100
性別	男性	129	27
	女性	341	73
年代別	20代以下	17	4
	30代	63	13
	40代	85	18
	50代	73	16
	60代	105	22
	70代以上	127	27
居住地域別※	京都地域	67	30
	山城地域	67	30
	南丹地域	26	12
	中丹地域	40	18
	丹後地域	24	11

※ 居住地域は書面及びインターネット調査の結果を使用。

京都地域：京都市、向日市、長岡京市、大山崎町

山城地域：宇治市、城陽市、八幡市、京田辺市、木津川市、久御山町、井手町、
宇治田原町、笠置町、和束町、精華町、南山城村

南丹地域：亀岡市、南丹市、京丹波町

中丹地域：福知山市、舞鶴市、綾部市

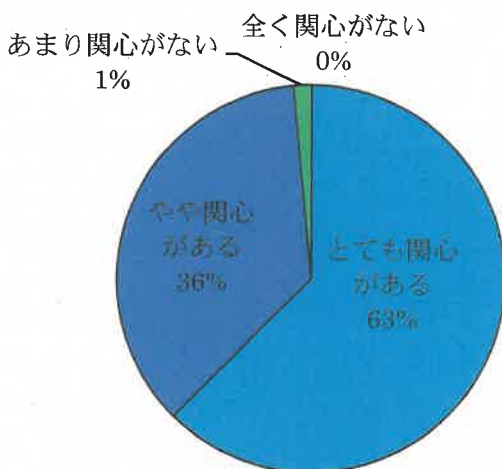
丹後地域：宮津市、京丹後市、伊根町、与謝野町

3 調査結果

問1 日常生活を取り巻く安全の分野には、自然災害、犯罪、交通安全、環境問題など様々なものがあります。

あなたは食品の安全について関心はありますか。次の中から1つ選んでください。ウ、エを選んだ方はその理由もお書きください。

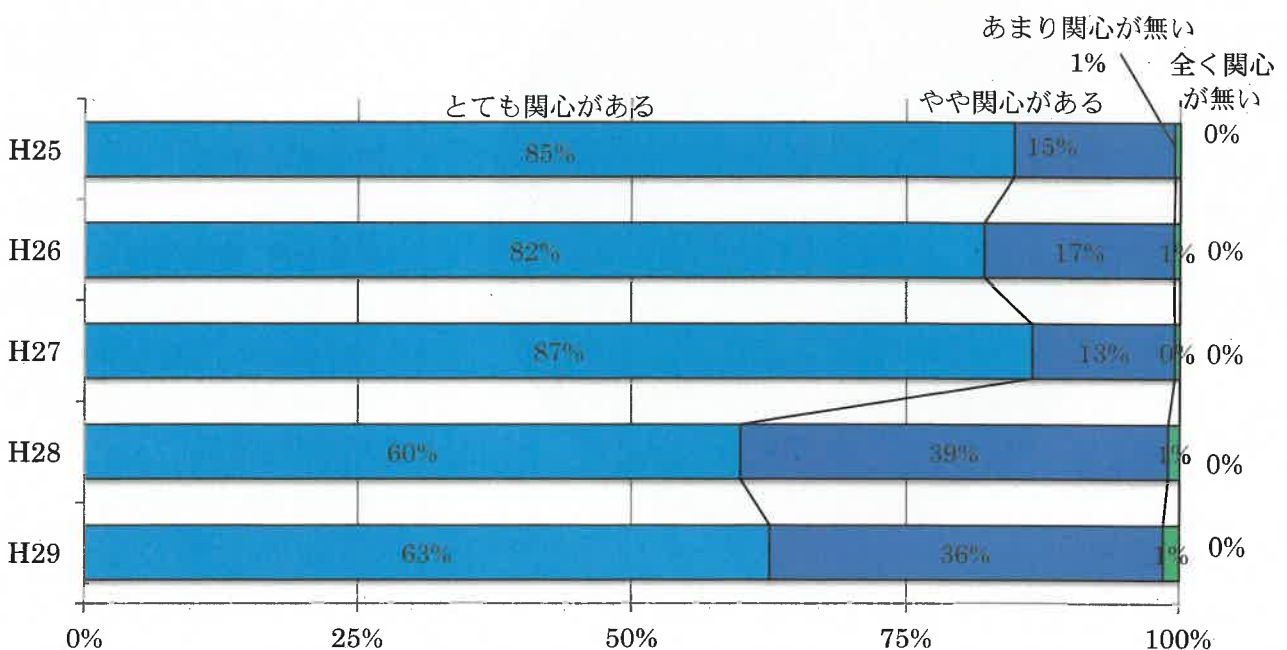
	回答数	割合 (%)
とても関心がある	295	63
やや関心がある	170	36
あまり関心がない	7	1
全く関心がない	0	0
合計	472	100



①項目別

【「あまり関心がない」と回答した理由】

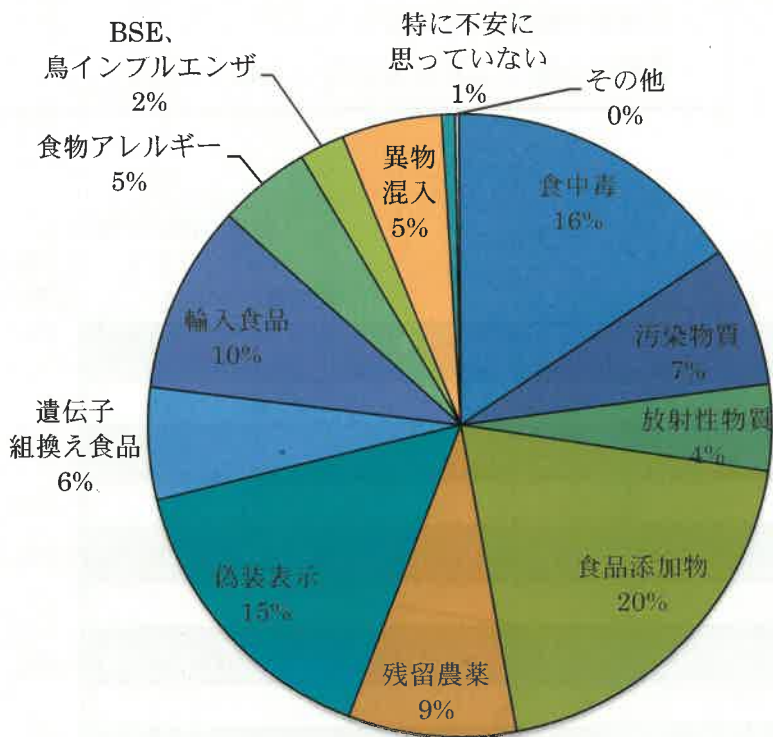
- ・安心安全に越したことはないが、食品を買うときに産地や原材料名をそこまで詳しく見ていないから。
- ・注意深くありたいが、無意味に感じる時がある。
- ・毒は売ってないだろうと思うから。
- ・子供もいないので国産、産地などは、特に気にしない。
- ・海外と違い日本だから。
- ・生産者を信頼しているから。
- ・過剰に心配しても仕方がないと思うので。



②年度別

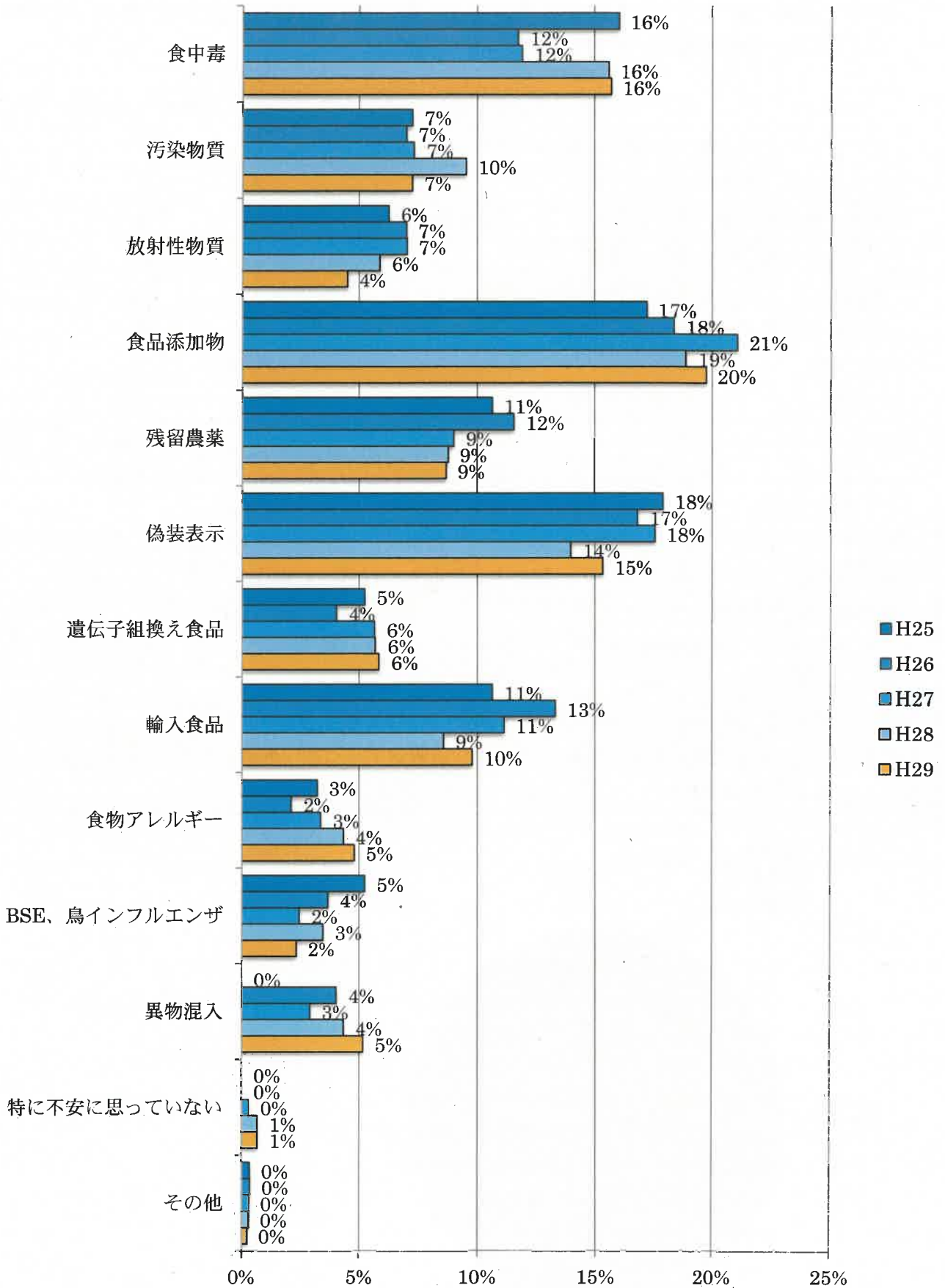
問2 食品の安全について、あなたが特に関心をもっていることは何ですか。
次の中から3つまで選んでください。

	回答数	割合 (%)
食中毒 (O157、ノロウイルスなど)	210	16
汚染物質 (メチル水銀、カドミウムなど)	97	7
食品中の放射性物質 (放射性セシウムなど)	60	4
食品添加物	264	20
残留農薬	116	9
偽装表示 (産地、原材料、賞味期限など)	205	15
遺伝子組換え食品	78	6
輸入食品	131	10
食物アレルギー	64	5
BSE (牛海綿状脳症)、鳥インフルエンザ	31	2
食品への異物混入	69	5
特に不安に思っていない	9	1
その他	3	0
合計	1337	100



【その他の意見】

- ・賞味期限。
- ・薬用野菜、健康増進の為の食品、積極的な健康維持増進の為の食品の食生活のあり方、地産地消、目に見える生産者が安心できる。
- ・栄養食品の安全性について。



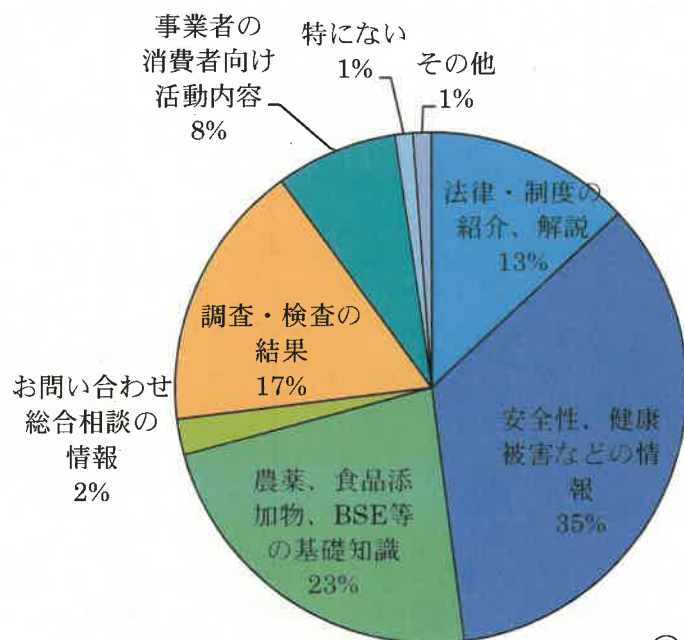
②年度別

問3 食品の安全について、あなたがもっと知りたいと思う情報は何か。次の中から2つまで選んでください。

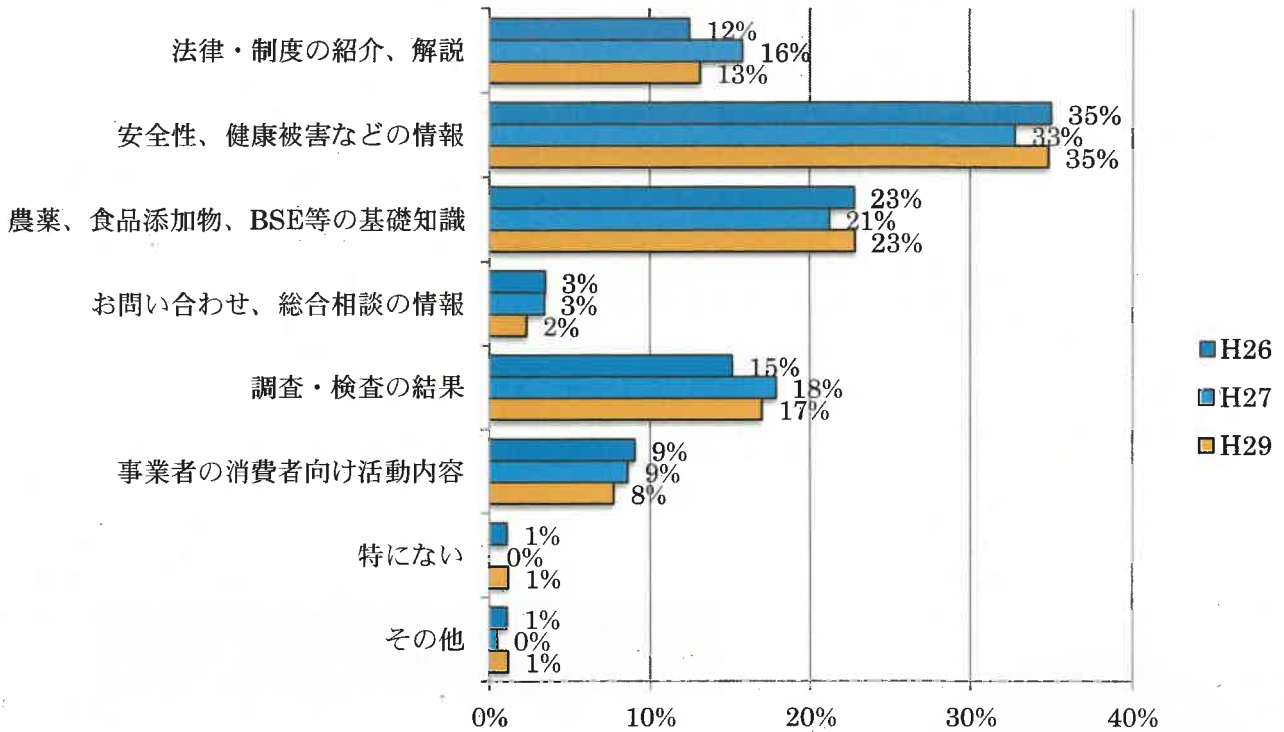
	回答数	割合 (%)
食の安心・安全に関する法律・制度の紹介、解説	58	13
食の安全性、健康被害などの情報	154	35
農薬、食品添加物、BSEなどについての基礎知識	101	23
お問い合わせ、総合相談の情報	10	2
食の安心・安全に関する調査・検査の結果	75	17
事業者の消費者向け活動内容	34	8
特になし	5	1
その他	5	1
合計	442	100

【その他の意見】

- ・食の安全について、悪いものを取りあげるのではなく、こういうものを選んだら良いという、家電の環境に対するトップランナー制度のようなものは良いと思う。
- ・添加物の使用目的等について。
- ・メーカー側でなく消費者視点で！
- ・健康に良い食べものについて。
- ・輸入品(特に加工品)の使用添加物や原料が栽培された土地が安全かどうか。
- ・使用原材料、原産地等の表示が曖昧であったり偽装表示などが「本当に信頼してもいいだろうか」と思えるときがある。



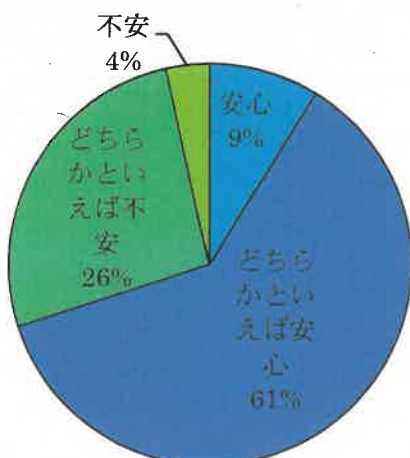
①項目別



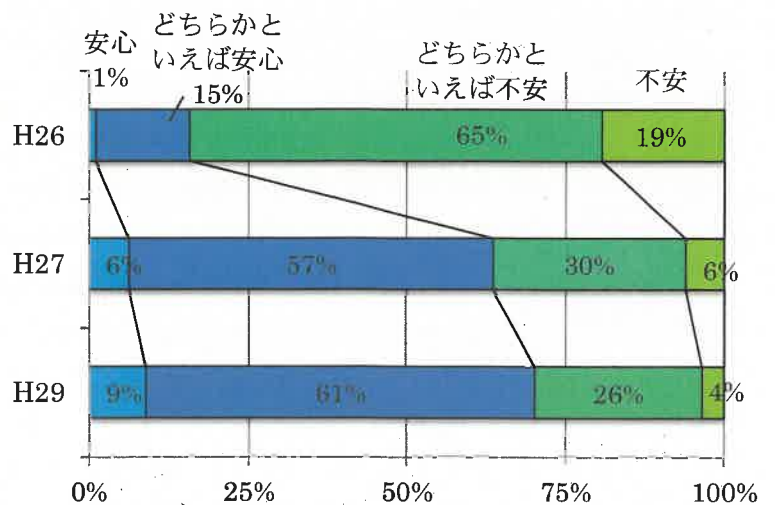
②年度別 (H25、H28は未実施)

問4 あなたは、現時点での「食」についてどう感じていますか。
次の中から1つ選んでください。

	回答数	割合 (%)
安心	20	9
どちらかといえば安心	139	61
どちらかといえば不安	60	26
不安	8	4
合計	227	100



①項目別

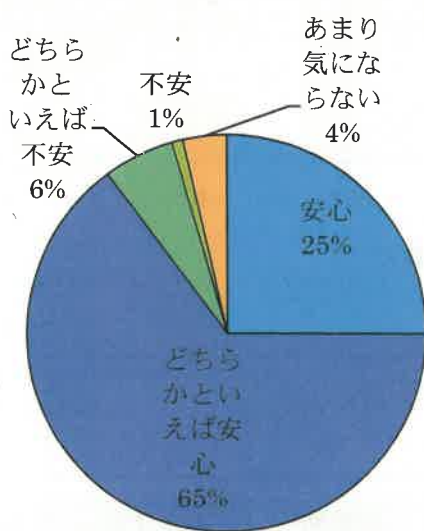


②年度別 (H25、H28は未実施)

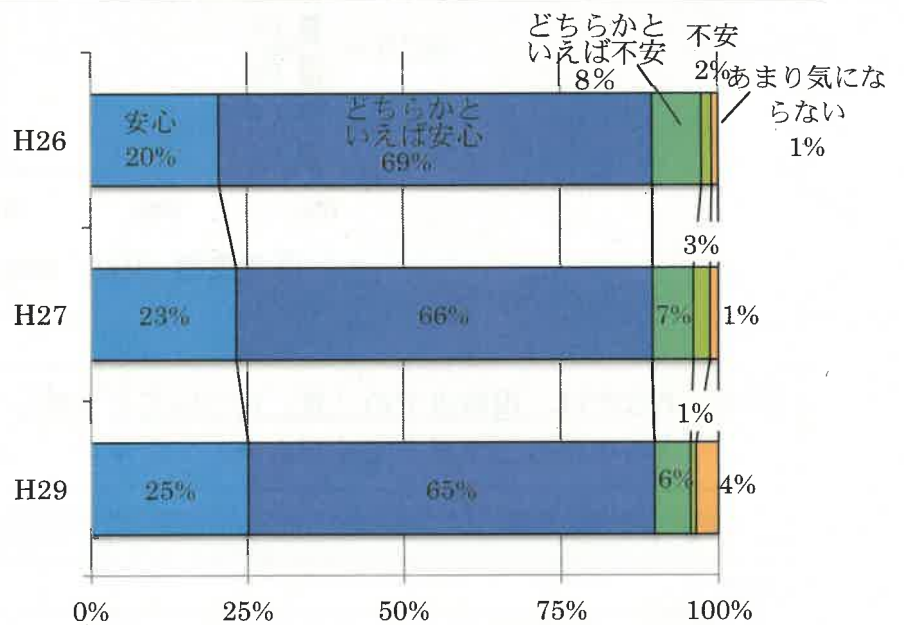
問5 あなたは、京都府産の食品の安心・安全についてどう感じていますか。
次の中から1つ選んでください。

5-1 京都府産生鮮食品について

	回答数	割合 (%)
安心	57	25
どちらかといえば安心	147	65
どちらかといえば不安	13	6
不安	2	1
あまり気にならない	8	4
合計	227	100



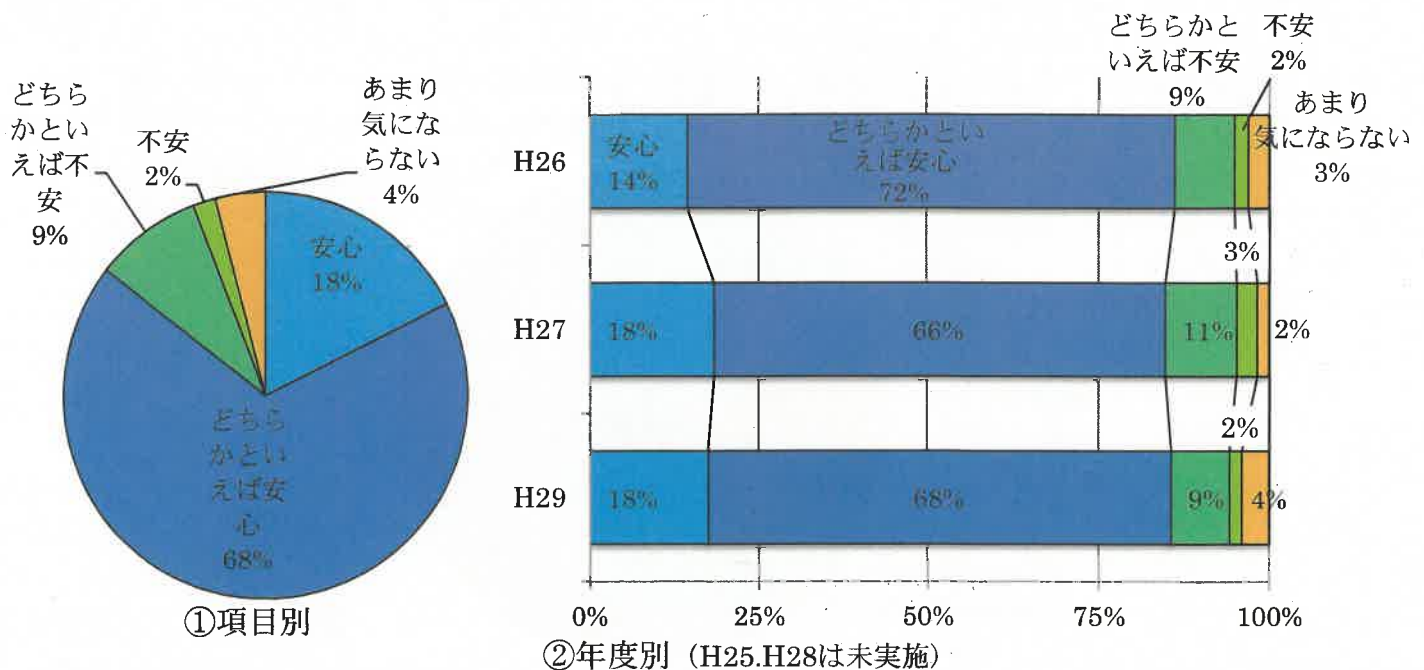
①項目別



②年度別 (H25.H28は未実施)

5-2 京都府産加工食品について

	回答数	割合 (%)
安心	39	18
どちらかといえば安心	151	68
どちらかといえば不安	19	9
不安	4	2
あまり気にならない	9	4
合計	222	100

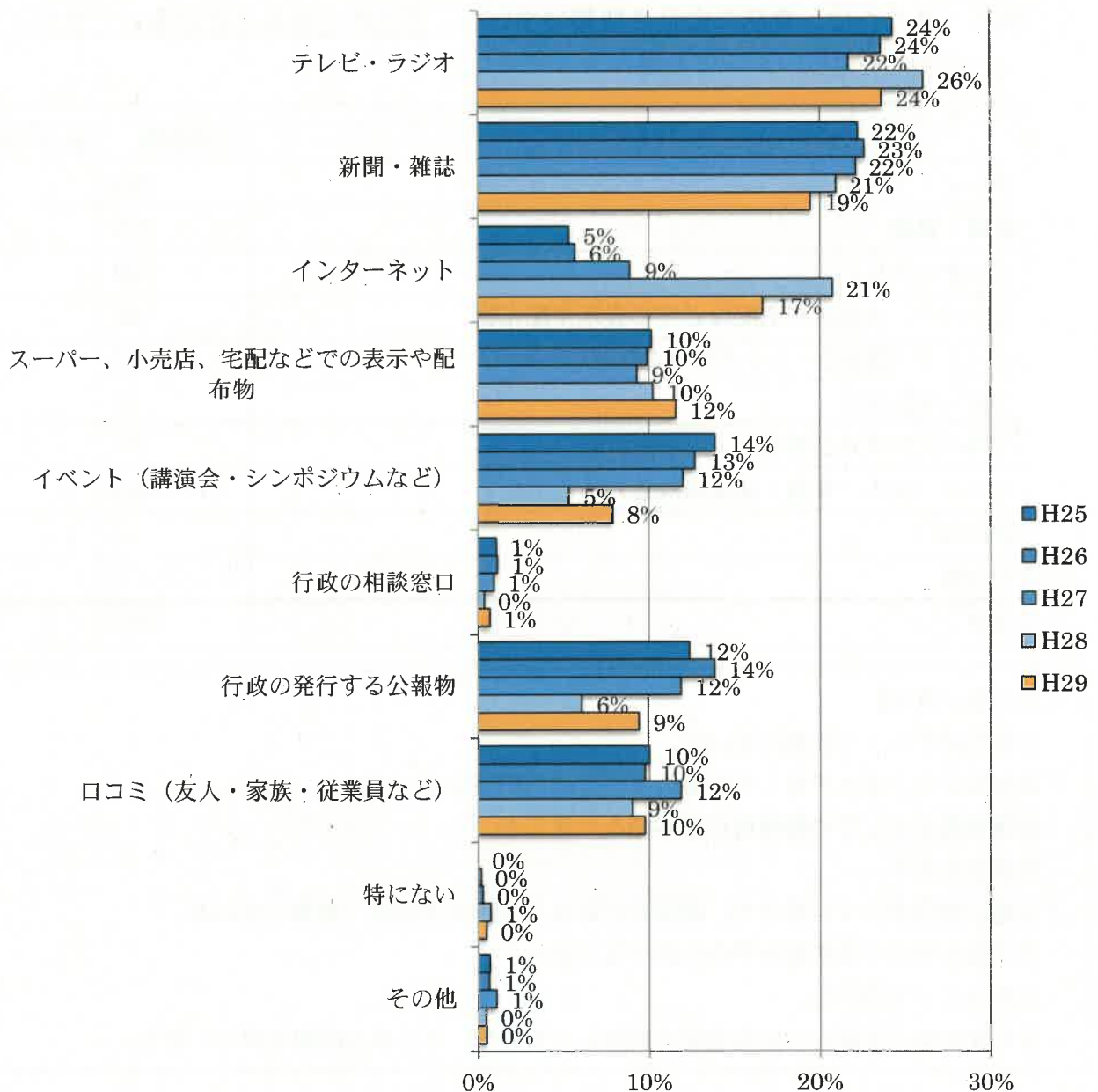
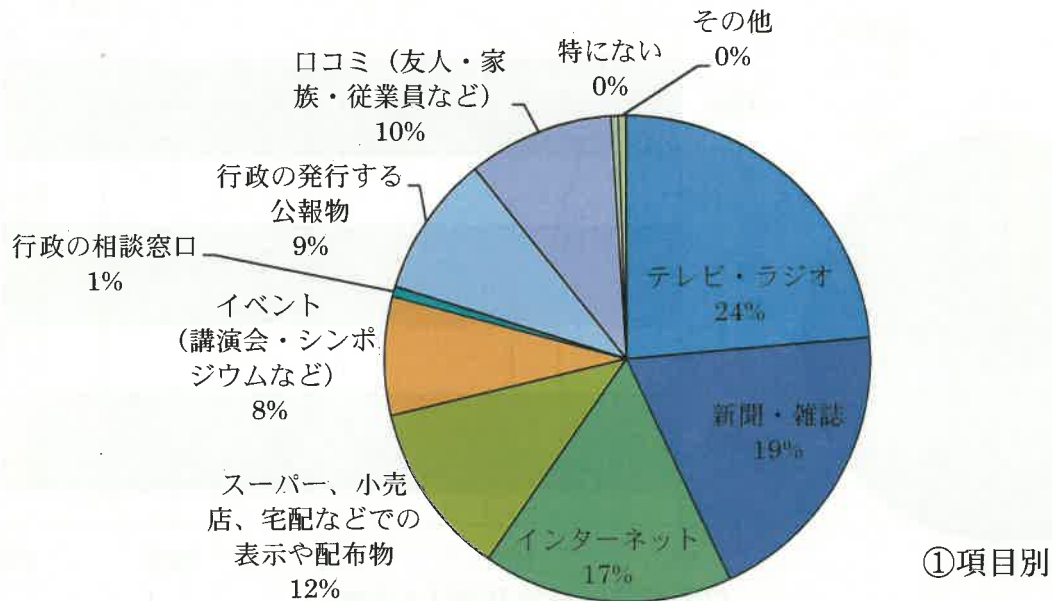


問6 あなたは、食品の安全の情報について、どこから得ることが多いですか。
次の中からいくつでも選んでください。

	回答数	割合 (%)
テレビ・ラジオ	339	24
新聞・雑誌	279	19
インターネット	239	17
スーパー、小売店、宅配などでの表示や配布物	166	12
イベント（講演会・シンポジウムなど）	113	8
行政の相談窓口	10	1
行政の発行する公報物	135	9
口コミ（友人・家族・従業員など）	140	10
特にない	7	0
その他	7	0
合計	1435	100

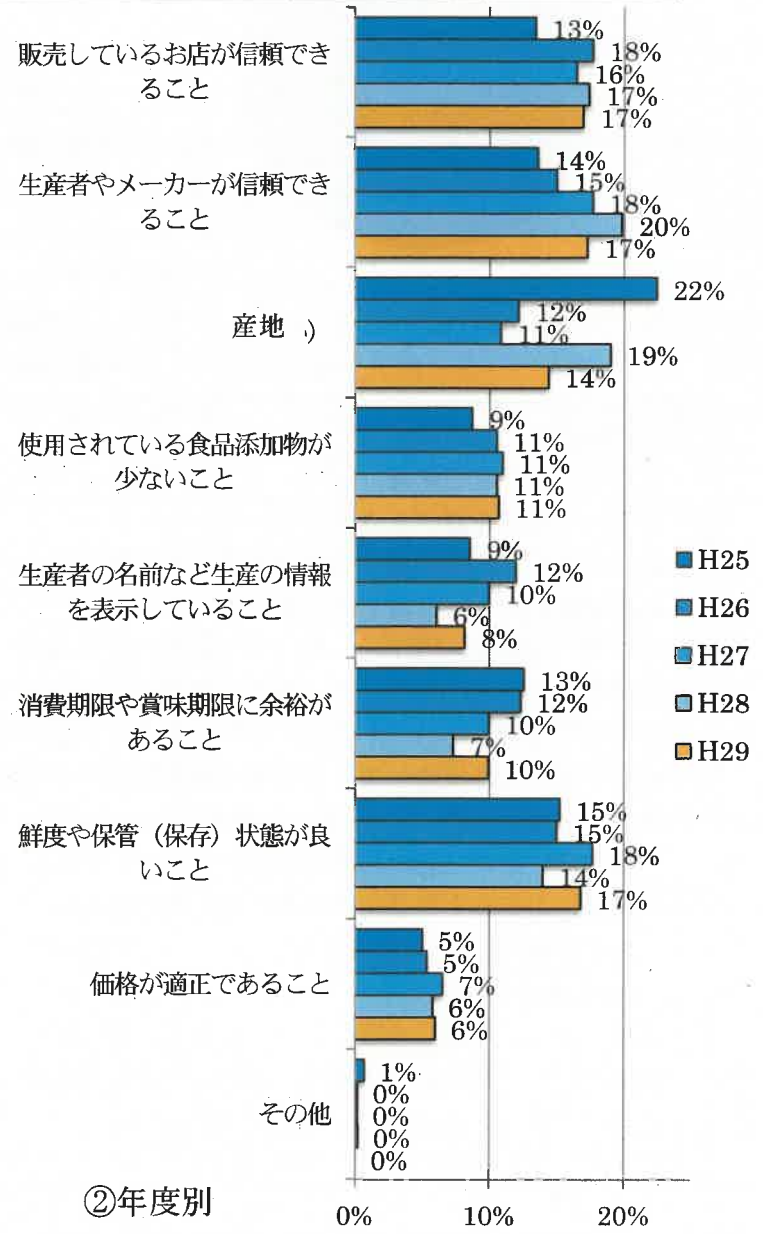
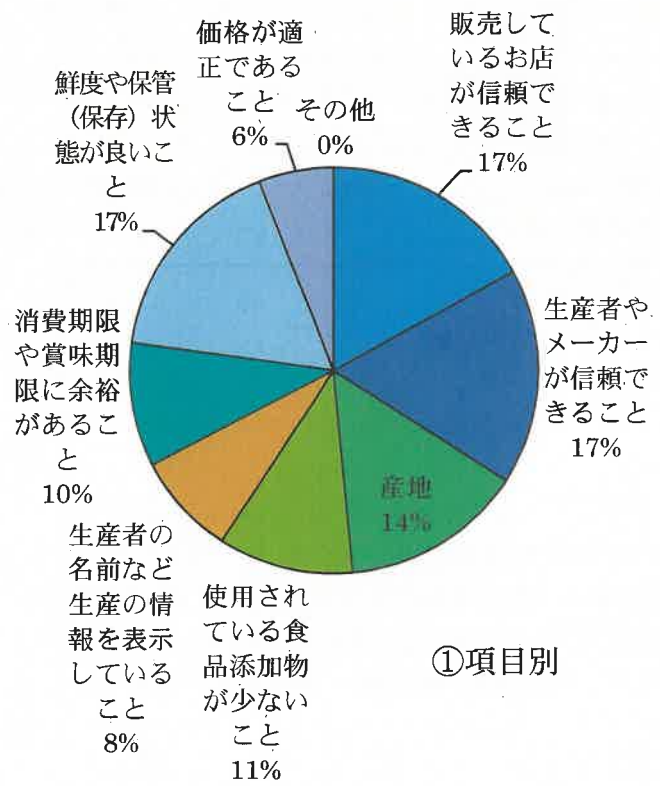
【その他の意見】

- ・消費生活グループ活動において。
- ・食生活ボランティアをしているので、行政の研修など。
- ・健康管理士としての指導員が基本知るべきこと。
- ・食改さんより。
- ・生協の総代をしているので、講演会があるとお声かけ頂き、勉強している。
- ・食品衛生学会や公衆衛生学会の冊子などから。
- ・生協のエリア会から。
- ・食の安全性を重視している宅配を利用してるので、そこから情報を得ています。



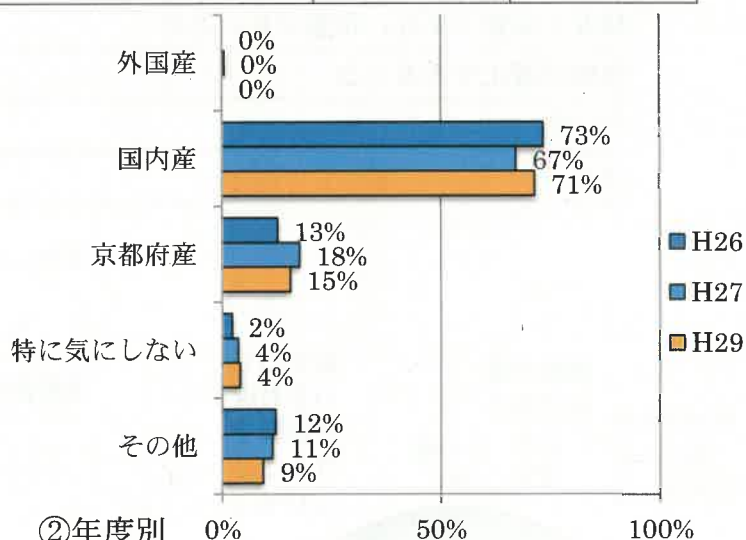
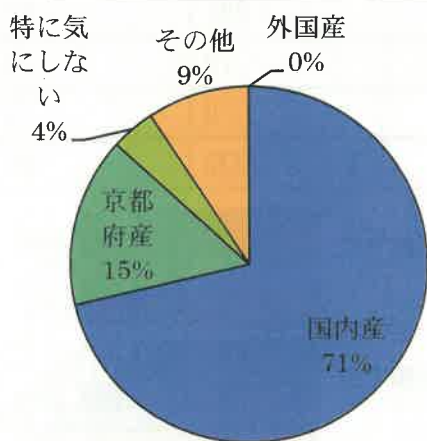
問7 あなたは、食品を購入する時に、食品の安全についてどのような点を考慮していますか。次の中から3つまで選んでください。

	回答数	割合 (%)
販売しているお店が信頼できること	224	17
生産者やメーカーが信頼できること	228	17
産地	190	14
使用されている食品添加物が少ないこと	141	11
生産者の名前など生産の情報を表示していること	108	8
消費期限や賞味期限に余裕があること	131	10
鮮度や保管（保存）状態が良いこと	222	17
価格が適正であること	79	6
その他	0	0
合計	1323	100



問8 あなたは、食品を購入する時に、どこの産地を選んでいきますか。
次の中から1つ選んでください。

	回答数	割合 (%)
外国産	0	0
国内産	162	71
京都府産	35	15
特に気にしない	9	4
その他	21	9
合計	227	100



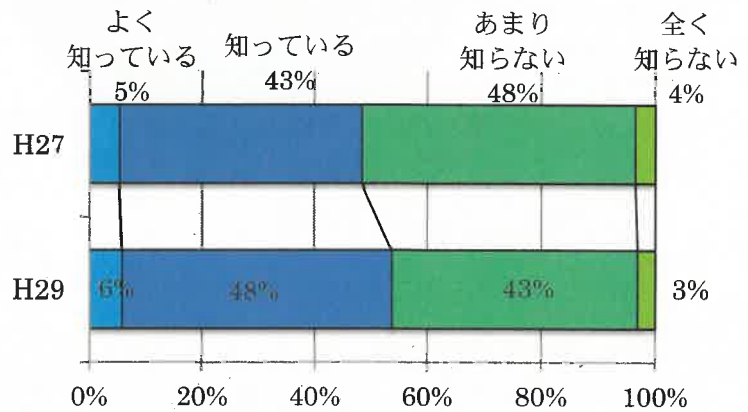
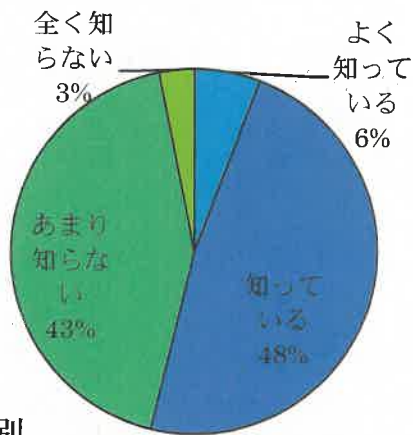
【その他の意見】

- ・品目により異なる産地。
- ・なるべく国産を選ぶようにしている。
- ・品目によるが、その場であれば京都府産を選びたい。
- ・京都府産がある時にはそれを優先する。
- ・なるべく京都産、国産。一部（ナッツ類）は外国産。
- ・地産地消で購入し料理しているが、アボカド、パプリカ等は異なる産地を選んでいる。
- ・生鮮ものは極力国内のものを、しかし加工となると外国産が多くて、日本の業者も多いと思うけれどそれらはどこに流通しているのか？中小が多いので量的に回らないのでしょうか。
- ・極力「京都府内産」「国内産」を意識するようにしているが、物により「外国産」を選ぶ場合もある。
「国内産」だから完全に安心とは、思っていない。
- ・産地を指定すると食品が手に入らない事がある。
- ・東北産を避けている。
- ・中国産は絶対を買わない。
- ・生鮮食品でも外国産を買うこともあるが、中国産は絶対買わない。信用できないから。
- ・産地と併せて農薬使用の有無、放射能検査の有無なども考慮して選んでいるので一概に言えませんがなるべく地元のもの、できるだけ近場のもの、西日本のもの、といったように選んでいます。
- ・放射能汚染の懸念が少ないと思われるところ、品目を選んでいる。
- ・産地とともに原材料が気になるので、その両方を合わせて判断している。

問9 あなたは、食品表示法に（平成27年4月1日施行）について、どの程度知っていますか。

次の中から1つ選んでください。

	回答数	割合 (%)
よく知っている	13	6
知っている	108	48
あまり知らない	97	43
全く知らない	7	3
合計	225	100



①項目別

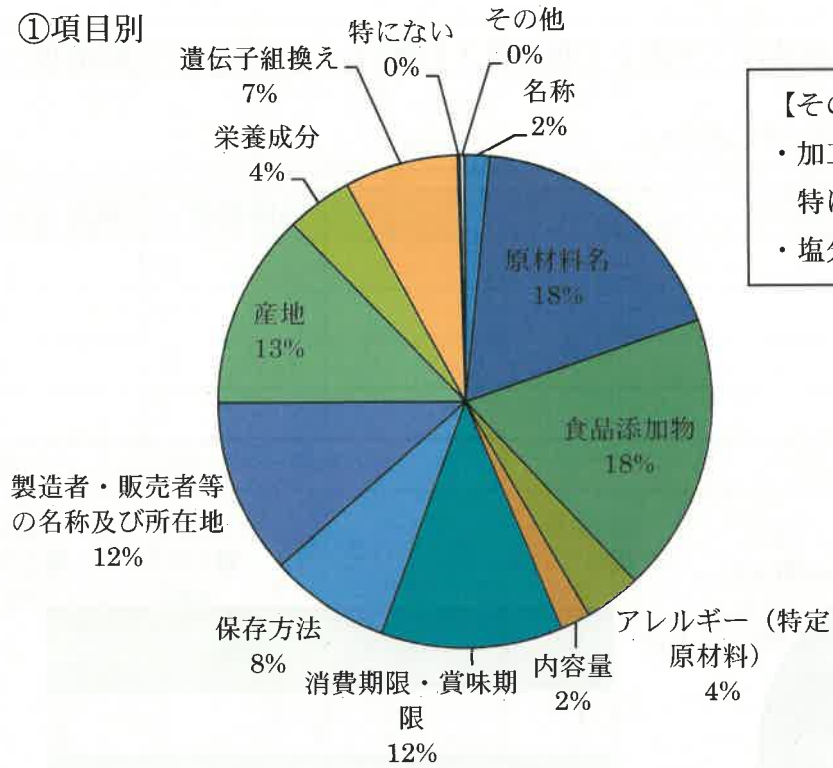
②項目別 (H27.H29のみ実施)

問10 食品表示について、あなたがもっと知りたいと思う情報は何か。

次の中から3つまで選んでください。

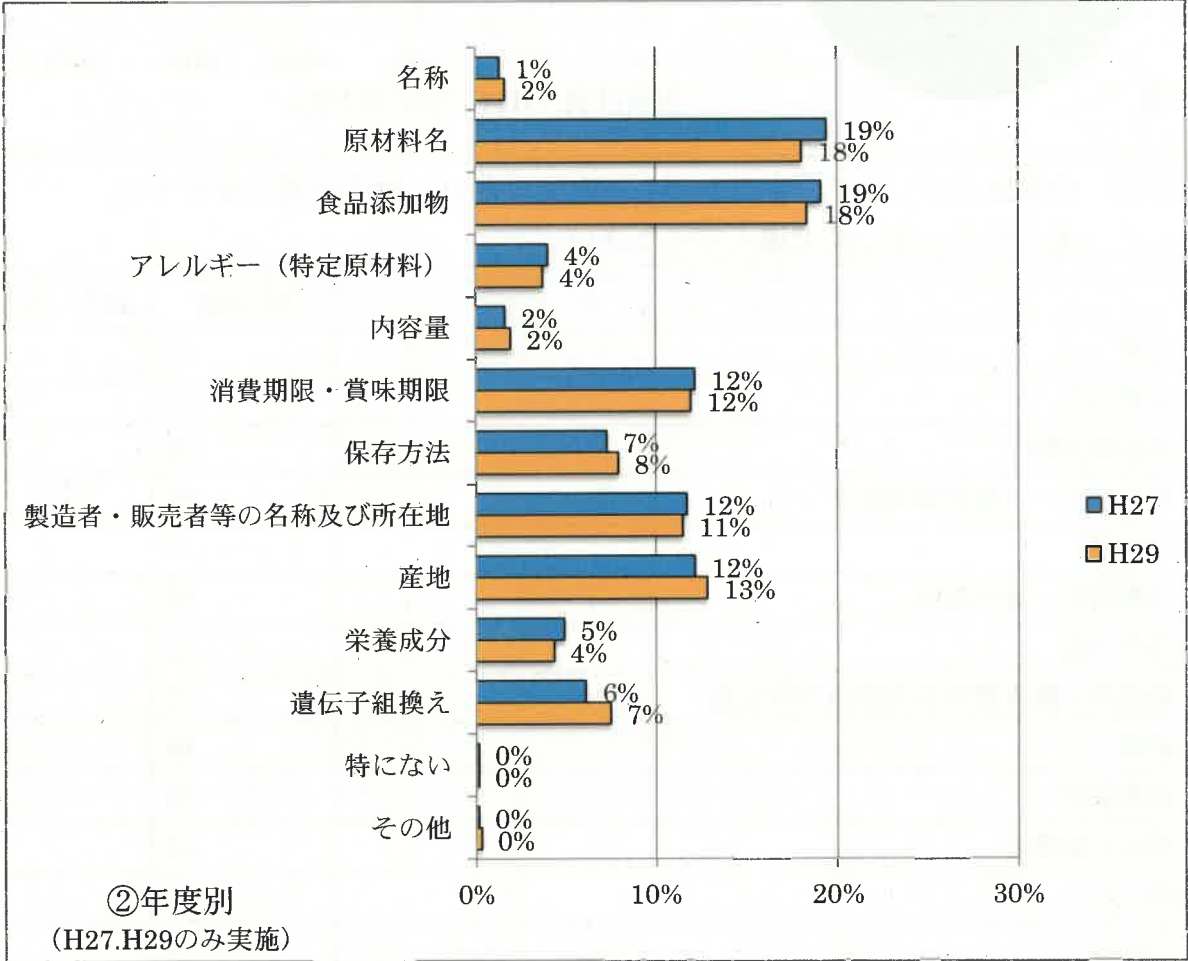
	回答数	割合 (%)
名称	11	2
原材料名	121	18
食品添加物	123	18
アレルギー（特定原材料）	25	4
内容量	13	2
消費期限・賞味期限	80	12
保存方法	53	8
製造者・販売者等の名称及び所在地	77	12
産地	86	13
栄養成分	29	4
遺伝子組換え	50	7
特にない	1	0
その他	2	0
合計	671	100

①項目別



【その他の意見】

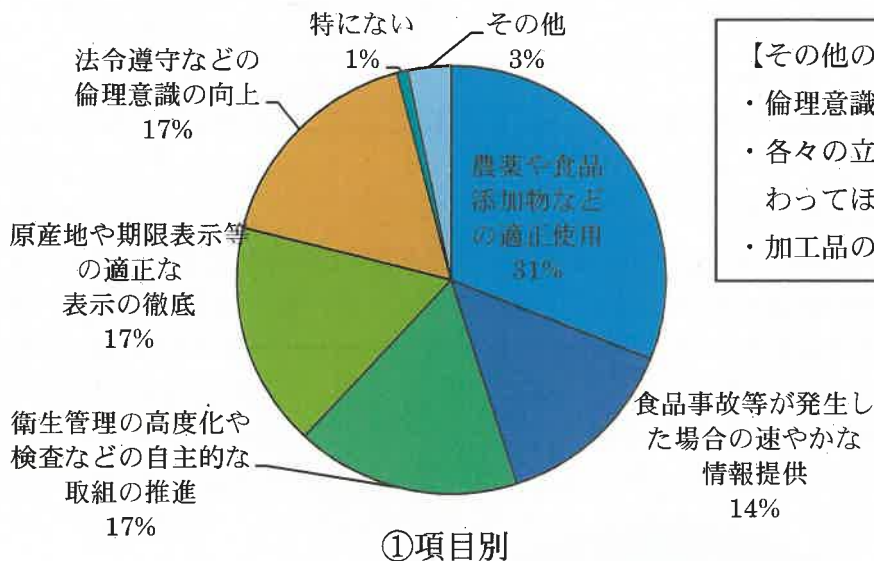
- ・加工食品の明細な表示。
特に産地。
- ・塩分表示



②年度別
(H27.H29のみ実施)

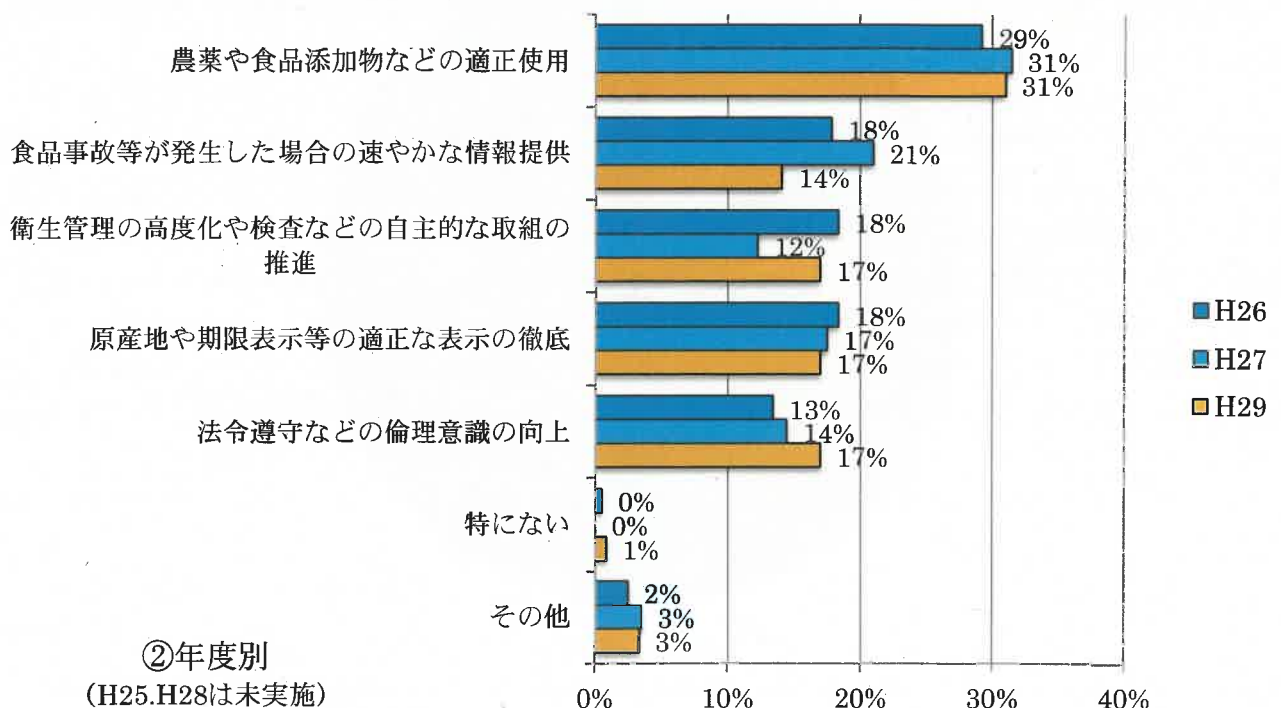
問 11 あなたは、安心・安全な食生活を送るために、「食品関連事業者（生産者、製造・加工者、販売者）」に望む取組は何ですか。次の中から1つ選んでください。

	回答数	割合 (%)
農薬や食品添加物などの適正使用	75	31
食品事故等が発生した場合の速やかな情報提供	34	14
衛生管理の高度化や検査などの自主的な取組の推進	41	17
原産地や期限表示等の適正な表示の徹底	41	17
法令遵守などの倫理意識の向上	41	17
特にない	2	1
その他	8	3
合計	242	100



【その他の意見】

- ・倫理意識の向上にプラスして食品事故の予防。
- ・各々の立場で自分自身が食するという事で携わってほしい。
- ・加工品の原材料や産地の表記がほしい。

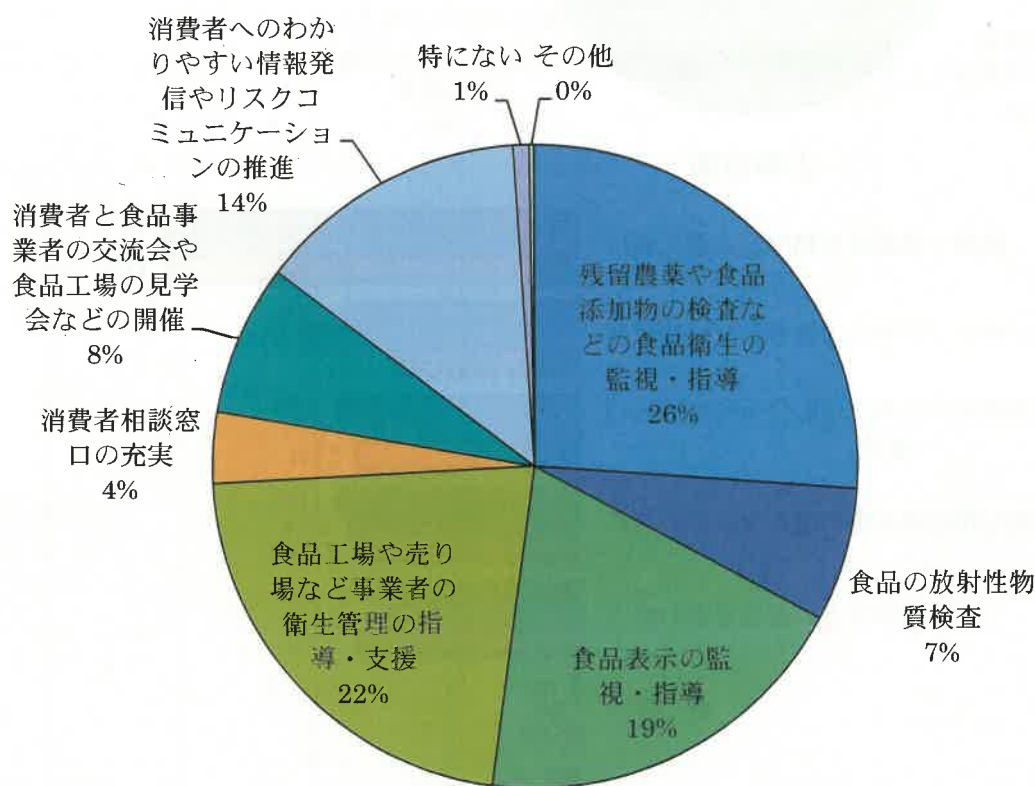


問 12 食品の安全を高めるために、京都府がさらに強化すべき取組は何だと思えますか。次の中から3つまで選んでください。

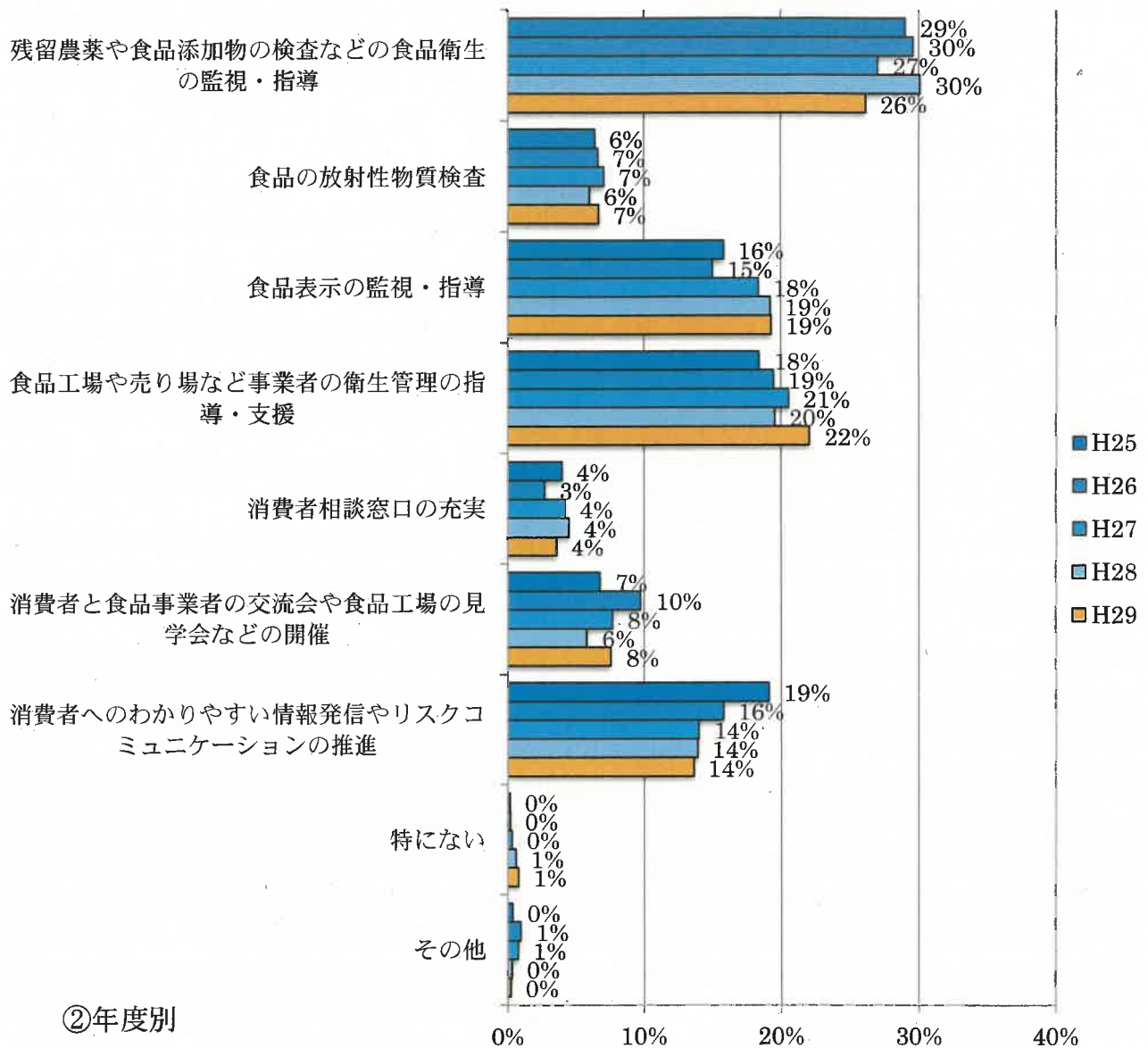
	回答数	割合 (%)
残留農薬や食品添加物の検査などの食品衛生の監視・指導	328	26
食品の放射性物質検査	84	7
食品表示の監視・指導	242	19
食品工場や売り場など事業者の衛生管理の指導・支援	277	22
消費者相談窓口の充実	45	4
消費者と食品事業者の交流会や食品工場の見学会などの開催	95	8
消費者へのわかりやすい情報発信やリスクコミュニケーションの推進	171	14
特にない	10	1
その他	3	0
合計	1255	100

【その他の意見】

- ・消費者教育が必要と思えます。
- ・消費者の望む「食の安全」がどのようなものか、多くの消費者を巻き込んだでの討論、検討。
- ・規格外野菜や、地産地消。安心安全と同じレベルに、優しさがしっかりあってほしいと思う。



①項目別



②年度別

問 13 食の安全について、ご意見、ご要望などがありましたら、ご自由にお書きください。

- 消費者へのわかりやすい情報発信やコミュニケーションの推進を繰り返ししてください。
- 牛肉の場合、トレーサビリティは我々に解り難い表示されていても買い物時はとっさに判断できないのでいちいちその都度尋ねると長い時間待たされ売る側も良く把握していないと思う。お魚の様に例えば宮津産とか入っている方が良い。肉の部位、肩とかは主婦は見たらわかるので、どうでも良い。肝心なことは満たされていない（産地）。一般的に若い人は上記の様な事に関心が薄いのではないか？
- 孫がアレルギーの為残留農薬食品や添加物、香料等が気になり商品の内容表示を必ず確かめて購入するようになりました。
- 私は昭和初期生まれの戦前、戦中、戦後を生き抜いてきた1人です。食の安心・安全など語り合え

ることなく乞食の様な食事をしてきた少女時代まで、多くの人が戦災で、食糧難で死んでいきました。あの頃を振り返ると今の世の中は夢のような食生活です。拾って洗って食べていた時代、病気ともたたかっていた。現在は果てしなく贅沢食品に変化し、日本の本当の食品の良さ失われています。日本人には何が栄養の基なのか、じっくり考えて地味な中での食生活を探していきたいものです。(若者に語り継ぎたい食生活を)

- 食品ロスの取り組みについて、捨てられる食品が多いと聞きました。若者の30%は貯蓄できていない現状に消費期限の見直しが出来れば値段も下げられていく方向へ行けば、若者が貯蓄でき将来明るくなると思います。
- 給食に異物が混入していたと報道されるが、原因を追及されているのでしょうか。何かうやむやになっている事が多い様に思われます。どこで混入したか徹底的に探して報告される事を願っています。
- 食の安全の為に、食品事業者はもちろん、消費者も知識を深め正しい取扱いを行わない。相互で食品安全の為に取り組む必要があるのではと考えます。
- いつも、食の安心安全パンフ等送付頂き有難うございます。大変分かりやすく勉強させて頂いております。リスコミは大変必要だと思います。
- 中小のスーパー等の売り場等の衛生管理や温度管理が不十分な所が多く見られます。残念な事です。
- 食の安全について行政に「まかせきり」というわけではないですが、信頼して生活しています。生産者も含め、それぞれが役割をはたしていただきたいです。
- なるべく、地産地消を大切に購入したいと思っておりますが、国産のものは、とにかく添加物のオンパレードで加工品には不安を覚えていますし、中食が多くなり若い世代(子育て世代)が食の安全など大切さをどれだけ考えているのか不安です。先は添加物についてのお話しを(京都キャンパスプラザ)伺いましたが、お一人だけではその方の見方だけになってしまいますので、全く対極の方のお話しもお伺いし、考えられたらと思いますので、どうぞよろしくお願ひします。
- 消費生活グループに入会して、関心を持っていて、機会があれば講演を聞きに行っていますが、いつも福知山か京都でなかなか出かけにくいです。丹後でも開いてほしい。
- 総容量の例えば、g数が記入されておらず、100g当たりのカロリーとか塩分のg数とかその他記入されている商品がある。全体でどの程度のものになるのかが判断しにくい。
- 簡単に沢山のファーストフードや商品が手に入る時代。手軽さ故に食の安全を考える事のない事に心痛めます。親の偏食が子どものアレルギーに、食の安全・安心をもっと身近に感じて、未来の為に健康で長寿である為にみんなが知って取り組んでほしいと思っています。
- 食べるだけの米、野菜は自分の手で作っています。土で健康に気を付けながら。29年度は野菜が天候の加減で大きく育つことが出来なかった。
- 食の安全・安心に関連する法規などの変更や新たな規制に係る詳しい京都府としての取組姿勢についての解説や例示
上記に関する新たな法令施行に伴う、食の現場でのチェックポイントの解説。
上記に係る地元の住民(消費者)への説明ポイント等のレジメ。
- 食の安心・安全に関する事件やトラブルについての情報提供。住民への連絡や注意喚起のため。
- 輸入された食品に関するトラブル事例等についての内容の教示。
- 生活に必要なものは殆ど生協を利用しています。生産者もわかり安心。しかし、決まった物になってしまいバリエーションがかたよってしまうことも。しっかり目をひからせて下さい。おねがいします。
- スーパーの冷蔵ケースは2、3段になっていますが、1段目に山になって積まれている事により2段目の商品が隠れてしまっている時が多々あります。品出しの手間をはぶいて一気に出してしまっているのでしょうか。山と積まれた上の方の冷蔵具合が気になります。指導をお願いします。また、食の安全ではないですが、価格表示に100g単位当たりの価格がついているものについていないものがあります。日々値動きのある商品は無理でしょうが、そうでないもの(調味料、乾物、e t

c) はしっかり単位価格を表示してほしいです。文字も小さいので、もう少し大きく表示してほしいです。

- 食品メーカーが嘘偽りを堂々としている側が過去にあるが、不信感がつのるばかり。
- 食品のジャンル毎に評価基準・尺度を作って優秀なものを、家電のトップランナーのように比較表示して、劣悪なものを見分ける情報を消費者に提供してほしい。
- 食中毒の注意報がよく出されます。ノロウイルス等にならないように、肉や魚をまな板で調理した後は包丁、まな板、手、水道の蛇口などしっかり洗っています。
- 毎日口にするものなので、一つ間違えば命に関わることになります。安心して食べられる様、企業努力と行政の検査・監督は厳しくお願いします。
- 毎日、家族7人分の食事を作っている。食品添加物の表示が細かくて老眼の為見にくいので、国内産特に地産地消を心掛けている。生産者、事業者を信頼するしかない。
- 自分が安心して口にする事が出来る物を作り、売ることが当たり前であってほしい。見た目、形良く美しい物作りであってほしくない。
- 食の安心・安全にて、地域講座が開催されており、京都市内が多くありますが、地方にても市町村毎に開催されることを望みます。
- 食品として完成するまで原材料、産地、添加物など完成する過程の監視、指導が必要と思われる。府はそれをやっているのか？店に並んでからワイワイ言ってもムダに思えて仕方がない。このアンケートは具体的に取り入れられていますか？報告ってありましたっけ？
- 加工食品の遺伝子組換えの表示義務化
- メーカーの行政による指導・検査の強化。消費者への情報を早く伝える努力。食品の中毒等、お店の管理、指導の徹底。
- 食品やサプリメントについて海外で禁止されている物とか、効果の無い物が堂々と売られている物に対して何らかの警告や規制をしてほしい。
- 外国産を国内産として出していないか気になります。監視をお願いしたいです。
- 添加物等ぬきうち検査をお願いしたいです。
- 盛り合わせ刺身には名前が記入されていない。盛り合わせのみの表示となっている。
- 日々安全について努力して下さっていることに感謝。今後、子ども達が食するものの管理監視をきびしく。(特に給食など)
- 検査や監視など取り締まりも大切ですが、事業者のいい取組みや商品開発等にももっと支援していただいてもいいと思います。
- 何時、行政が感心を持って検査等してくれるのに安心。個々に食の安全を考えている様でよいことだと思う。
- 京都府では事故がありませんが、今後共、検査監督を丁寧にしてください。
- 食の安心・安全委員として勉強させていただき生活面でとても役立ってきたと感謝しております。最近、高齢化が進み高齢者向きの勉強会も必要ではないかと思っています。
- 便利なこの世の中での加工食品は実に口にははいけない。大量生産品を生み出す為の鶏は牛、勿論のこと卵、野菜、肉、魚までも売る側に好都合に、実に不健康な鶏、牛達本当に悲しく思います。人の口に入れるものだからこそ実行しなければと思います。
- 食は直接健康に関わることだけに、事業者の倫理がより求められます。売ればよいという視点での販売が安全を犠牲にしている面があると思います。
- 今はどの食品会社も、お客様相談室などが設置されていますが、製品事故(異物混入など)のあった場合、会社に直接言うと「対応しましたが問題ありませんでした」でもみ消されると聞いた事があります。消費センターや保健所に持ち込んだ方がよいのか迷うところです。
- 伝子組換え食品とは、一体私達の身体にどの様な影響があるのか私は余りよくわかりません。先日？%か忘れましたが、それ以下だったら表示しなくてもよいようなことを、テレビで見ましたが、消費者は拒否することも必要かと思いますが大豆などほとんど外国産だと聞いたことがありますけ

れど、国産が多いのは不思議だと思います。

- 食品表示の字が小さく見えにくい。買い物中に年輩の方より賞味（消費）期限がどこに書いてあるかと尋ねられたことがある。
- 魚貝類について、外国産のものは信用できない。検査を厳しくされており安全であると思うものの、マスコミで放送された内容を見てどうしても手が出せない自分が困ったものだと思っている。
- 我が家では、孫の高校2年生から大学1回生と40才後半の娘夫婦と70才代の老夫婦6人分の夕食作りを10年間やっています。70%位を自然派コープを利用購入して手作りですが、出来るだけ有機栽培の野菜等も購入してと思いつつ毎日の事で材料が多くなると価格が1.3倍から1.5倍位になり、見た目は変わらないように思えますが、安心安全な食物を出来るだけ値段も安く購入出来るようになれば嬉しいです。
- とにかく食品添加物が多すぎ。すべてに使われているので合わすとすごい量になる。それを毎日食べていると思うと、この先おそろしいです。自然な味。添加物を認めないで減らしてほしいです。企業に減らしてもらおう運動を！！
- 放射性物質などについては不安もあるが行政などできちんと情報が発信されていると思っている。食品への安全なども安心して各産地や飲食品などで従業員のエプロンなどの汚れや髪の毛の始末などが気になり調理室なり調理室の衛生などはきちんと調査されているのか不安に感じることがある。自分たちも工房で製作売しているが、一層衛生面や商品の管理を徹底していきたい。
- 当自治体は2/月回、買い物支援バスを。私は2~3/月回、少々ガソリン代をかけて大型スーパーへ。（冷凍保存できない紙パックの乳製品やジュース類がネックです）
内容量「〇〇 5本」、「×× 6個」等の個別の栄養表示は評価しますが、「全体量 △△g」を知りたいと思うことがあります。
- 神戸の南京町などで販売されているものなど、どの程度法令遵守され、検査、監督、指導などがおよぶ仕組みになっているのでしょうか。フリーマーケットとか…例外とはいえない形態が次々と。
- ゲノム編集による遺伝子組換え。早晩食卓にも・・・世界共通のルールがない中で。倫理的にも問題だと思っています
- ダイアモンド博士の急速な文明の発達には150年しか持たない。2050年がタイムリミットに衝撃を受けています。ひとりでも多くの人があるような危機意識を持って地球や人類の寿命を延ばすことに知恵を絞って欲しいと願う気持ちでいっぱいです。
- 先日のテレビで介護を受けずに自立した生活の出来る平均年齢は全国で京都府は大変低く42~43番だったように思いびっくりしました。食の安全、食生活の習慣によるものかと思いついて自分の食生活を思い考えたものです。長寿社会とは言え健康長寿でありたいとつくづく思いました。日本に入ってくる食品は厳しい検査のもと輸入されると思っています。農薬等の危険な薬品等の検査は徹底してきびしく私達素人が安心して食べられるよう今後ともよろしく願いいたします。
- 販売者に確実な安全性のある食品を扱ってほしいと思う。消費者は販売者の良心を信じて購入しているのだからあとで、知らなかったでは困る。京都府もしっかり監視、指導をお願いします。
- 今回、このアンケートを記入するために改めて原材料名の項目を各々の食品について見ました。特に菓子の中に含まれているものの多さに驚きました。これ程の物がいるのかどうか。もっとシンプルにはできないのか。エキスだけでも何種類も含まれていて…。消費者として最低限の原材料で作る菓子メーカーをもっと調べて応援するような取組ができないかと考えてしまいました。
- 検査に取り込んでおられる現場実態、調査方法を自分の目で見てみたいです。
- 外国産。特に畜産品、牛、豚、鶏肉の安全性が保持されているのか。移送中の管理温度・細菌、行政の抜き打ち検査体制や結果を発表
- 食品を私達が口にするのは食品の最終経路です。生産者、販売者は法に準じて、私達消費者に安全かつ調味が優先して流通されますが、食品の流通や在庫期間がわかりません。新鮮さも重要です。つまり、食品の味です。持っている味が生産者から消費者までキープする事は大事です。特に新鮮であることは食料品の命です。又、私が気にするのは価格です。食品を包装するのに空気や温度、

美術品の様に絵で表現する食品PRで値段が同じ食品で統一されていない事です。特に食品はPRでおいしさや特性を気にします。広告で本来の食品安全をこわしたくないですね。以上は私の意見です。

- 食の安全は健康保持の上で最高の課題と思います。紛らわしい食品は買わないよう心がけるようにと考えます。行政庁におかれましてはどうかよろしくご指導をお願いいたします。
- 食の安全は勿論大切ですが、最近の食物の値上げに困っております。あまり高くなると安全性より値段を優先するようになるのではと危惧しております。
- 外国産でもきっちりとした情報で安全だと思えるものが欲しい。露地物の野菜が一番だと思うが、工場で作られたものでも栄養面も考えてもらい、価格も安定して市場に出してもらいたい。いろいろな野菜の研究が進むことを願います。
- 食の安全について今の若い人たちは真剣に考えておられるのかといつも思っています。外食が多くこれでは今の子どもたちが本当の食事（安全を含めて）を、家庭の食事を楽しむことができるのかなあ…といつも思っています。特に中国産の食材を見つけると避けてしまうのは良くない事なのでしょう。国産の特に目に見える地産地消の消費生活と自給率のアップに向けての学習をもっとして欲しいと思います。それが食の安全につながると思っています。
- ウソをつけない様な環境づくり
- 食の安心・安全は無限のテーマですね。
- 各地域毎に食の安心・安全推進員のグループで勉強会を月に1回は行う。実地で材料を購入し、料理をして試食し、話し合うも良いと思う。
- 1.消費者と食品事業者との間のコミュニティをどの様に継ぐのか？
2.体系的に捉えてコミュニティ広場を創り出せるか。
3.その双方を継ぐ役割として行政がリーダーシップをどれだけ、どの様に果たせるのかが今後求められる。(現状はコントロールセンターは悪い)
- 食品の衛生管理と異物混入等において行政がしっかり監視や指導を行ってほしいです。そのためには、食品工場の見学会なども積極的に行うべきだと思います。
- 食品関連事業者の倫理意識、法令遵守の向上
- 限られた時間で買い物をするゆっくり見て買うことは難しく、どうにも目にする所は商品の表面。消費者が見てすぐ理解できるように大きく簡潔に明記されてるとうれしい。
- 食品表示の改正はクイズレベルのわかりにくいものです。農薬・化学物質の使用基準は、各省庁にわかれています。もっと国民やこどもの安全を第一目線で一元化できないでしょうか。
- 小売店よりスーパーマーケットを利用することが多いのですが、おにぎりとかお饅頭のようなその業者からの商品は、賞味期限を大幅に過ぎていても、カビなど発生せず、ネバーとした感じもなく臭いも無いのですが、防腐剤などどのくらい使用されているのか、又健康には影響がないのか心配です。家で作ったおにぎりは一日少し過ぎれば品質が変わります。
- 食品により原産地が記載ないものがある。
鮮魚のおつくりで盛り合わせなどの調理加工されているものは無表示であるが単品の鮮魚などは表示されているので、大変ですが表示願いたい。
原産地表示では、外食産業のメニューに未表示の場合が多い、これも表示していただきたい。
何れにしても正直に正確表示願いたい。
ウナギや貝類などは、本来育った場所が外国であるにも関わらず最終出荷元が国内であればそこが原産地と表示されている。これらもx x x国飼育、最終調整〇〇県などの表示が望ましい。
大豆などは国内産となっているが、国内の生産量は本当にそれほどあるのか疑問です。(遺伝子組み換えでない大豆などと記載されているが疑問?)
賞味期限は、やめて消費期限に一本化すべきでライフサイクルを伸ばすことも考慮すべき。(食せるのに廃棄している食料が多すぎる。)
- 消費者は表示だけが頼りなので、誰が見ても分かりやすい共通の表示方法で内容を伝えてもらいた

い。添加物などは国の基準が本当に妥当なのか、という不安が残らないようにしてほしい。正しい情報を伝え、生産者や企業の指導と監視も徹底してほしい。

- 正しい表示を徹底し、消費者自身が選んだものに虚偽がないようにしてほしい。
- 食の安全に関して、多くの人がナーヴァスになりすぎているように感じる。
- 農業従事者、新規農業者への支援を願います。
- 食の安全はもちろんですが、私達が食べるものが持続可能なものなのかということと、容器包装の在りかたにも関心があります。
- 特に、親が求める「給食の安全性」を幅広く意見を募るなどして、ご検証いただきたいと思います。未来を担う子供たちの給食にはもっと予算をつけていただきたい。
- 食品の放射性物質検査の国の基準が100ベクレルと非常に高く、9.9ベクレルでも検査を通過してしまうという現状です。京都府独自の基準を設けて、検査していただきたいと思います。原発事故から8年目ですが、未だに原子力緊急事態宣言が出されたままであるということ、食べることは生きることで食べ物の安全を守ることが非常に重要であることを改めて感じ、考えていただきたいと思います。
- 消費者も生産者さんも事業者さんもみんなが健康で、仕事に誇りと生きがいを持って取り組んでくださる、それが引いては環境保全につながる、ということこれから生きる子ども達に目に見えたカタチで伝えられたら、それこそ本当の食育ではないかと思えます。
- 正しい理解を深めるための参加しやすい学習会の設置や広報の仕方
- 農薬の基準の見直しを求めます。今の基準では子どもに安全とはいえない状況です（特にネオニコチノイド系）神経毒性への影響を考慮していただきたいです。また、水産物の水銀汚染問題、養殖や畜産の情報開示の徹底を求めます。
- 消費者が購入した商品等で疑問が生じた場合、気さくに申し出ることが出来る窓口にも力を入れていただければと思います。